

黒岩知事との“対話の広場” 横須賀三浦会場 生徒会参加活動報告書



日時：2019年10月24日(木) 18:00～20:00

場所：ヨコスカ・ベイサイド・ポケット(横須賀芸術劇場小劇場)

参加者：本校特進コース2年 青木 1年 館山 瀬川 生徒会2年 山本 1年 齋藤

報告者：生徒会2年 山本暖歌 1年 齋藤夏菜美

補筆 武田 校正 荒川 伊藤

◆ 活動内容

今回の「黒岩知事との“対話の広場”横須賀三浦会場」は、神奈川県活性化のために黒岩知事が神奈川県各所を回って行っている県民との対話集会です。今回は、横須賀三浦会場とあるように主に三浦半島の活性化について2つの事例発表をもとに、高校生を始めとする若い方を中心にいろいろな年齢層の方との意見交換を行いました。事例発表は、鎌倉市の1つの自治体の取り組みと、三浦市で起業したグループの取り組みの2つでした。また今回のテーマは「持続可能な神奈川に向けて みんなでつくる笑いあふれる三浦半島」でした。

◆ まとめと感想

今回の黒岩神奈川県知事と語る「対話の広場」会に参加してよかった点は、日常ではふれることのない貴重なお話を聞くことができ、とても有意義な時間を過ごさせて頂いたことです。中でも、「三浦半島食彩ネットワーク」という団体を運営している栗村倅知子さんのお話が印象に残りました。私は、お話の中にありました『既存資源を新しく魅せる商品開発』をモットーに造られた『食彩 GARDEN 三浦やさい栽培キット』にというものに注目しました。その商品はただ野菜を栽培出来るキットではなく、肥料にマグロの残りカスを有効活用して、野菜を栽培できるものになっていました。私にとってマグロは食べるだけの存在ですが、このようなマグロの使い道があることを知り、驚きました。栽培キットを

造るにあたって『デザインで引き出すセールスポイント』を3つ設定しています。1つ目が既存の資源で「新しい魅力」を創出すること。2つ目が食彩ネットワーク所属の各メンバーの業種を生かしたビジネスの展開。3つ目が三浦市の代表産業である水産業の「マグロ」と農業の「野菜」を掛け合わせ、三浦市のPRをすることでした。この3つのことを取り組んだ結果、地方創生賞大賞を受賞し、「神奈川なでこブランド2018」に認定されたとのことでした。

このように地元の名産・特産品を使用して一つのを創り上げることで地元のPRになり、街づくりにもなるということを知ることができました。

また、葉村倭知子さんのお話の他にも県知事である黒岩さんとの意見交換会では幅広い年齢層の方から様々な意見が出ました。しかし、私はなかなか言いたいことが見つけられず発言することが出来ませんでした。改めて思うことは、自分なりの考えや意見を持てるよう、積極的に取り組みたいということです。今回の機会を機に改めて横須賀の未来について、自分ができることを考えていき、実行につなげたいと強く感じます。またこのような貴重な会がありましたら、積極的に参加していきたいです。

記:生徒会2年山本暖歌

今回、神奈川県知事と対談できるという貴重な機会に参加したものの、緊張や私の知識不足により一切発言できないままこの時間を過ごしてしまいました。しかし、その中でも他の方からの様々な意見や考えを聴くことができました。その中で特に印象に残った意見は、観光よりも「定住」についてです。今、三浦半島で人口減少が問題となっていて、その要因として、観光には来るものの定住する人があまり居ないということがありました。それに対して「三浦半島に大きな企画を作る」というような意見を聞き、今まで私は観光について考えすぎていて「定住」という事に関しては盲点だったと気付くことが出来ました。それをこの先、三浦半島について考えるときの参考にしつつ、自分の意見を持てるようにしていきたいです。

また、事例発表にて三浦半島以外の地域での取り組みも聴くことも出来ました。ここで印象に残った話は、「間引きの為に伐採した竹を肥料として使う」という話です。三浦半島には多くの竹林があるため、そこで出た竹を細かくして肥料として土に混ぜるといったものでした。他にも様々な廃材を肥料にしている話もありました。普段なら捨ててしまうものでも工夫すれば活用できることを知り、この先、自分でも色々と工夫した生活をしていきたいと思うようになりました。そして、高校生という立場からでも地域に貢献できるようなことがあれば役立ちたいと考えるようになりました。

今回のこの機会を得た知識を無駄にしないように普段の生活の中に取り込めることがあれば考えていきたいです。

記:生徒会1年齋藤夏菜美

